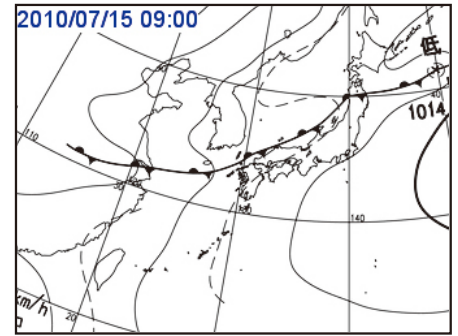
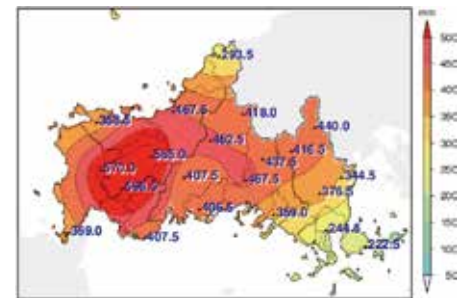




JR 厚狭駅



天気図(7月15日09時)



総降水量分布図



下関市豊田町



JR 美祢線



周南市小畑

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月10日九州南部に停滞していた梅雨前線が、11日にかけて北上し、7月12日から15日にかけて九州北部から山口県付近に停滞したため、県西部を中心に局地的な集中豪雨となった。</li> <li>15日未明から朝にかけて、下関市や美祢市を中心に1時間降水量が50mm以上の雨が降り、下関市豊田では15日06時28分に、72.0mmの1時間降水量を観測した。</li> <li>7月10日から20日にかけての総降水量が、美祢市東厚保で596.5mm、美祢市秋吉台で585.0mm、下関市豊田で570.0mmを記録し、7月の平年の月降水量の1.5倍を超える大雨となった。</li> </ul>					
	総降水量(mm)	596.5(東厚保)	日降水量(mm)	234.0(秋吉台)	1時間降水量(mm)	72.0(豊田)
被災場所	県西部、中部					
被害の規模	(住家被害)全壊3棟、半壊35棟、一部破損23棟、床上浸水608棟、床下浸水974棟 (その他被害)道路329ヶ所、河川372ヶ所、がけ崩れ67ヶ所 など <被害額総計>約118億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚狭川や木屋川が氾濫し、多くの家屋が浸水したほか、道路法面の崩壊、JR美祢線の橋りょう流出などによる交通網の寸断、水道施設の被災による大規模な断水が発生した。</li> </ul>					



ぼいうぜんせん しゅうちゅうごう かせん はんらん かおく しんすい  
梅雨前線による集中豪雨で、河川の氾濫や家屋の浸水が発生したんだ。  
集中豪雨は短時間のうちに局所的に雨が降るため、道路や低地が水に浸かったり、河  
川が急に増水したりするから注意してね。

## 体験談

# 『「来る、来る、来る」路地はまるで川のように

## ～川の氾濫の大変さ実感～』 山陽小野田市 女性 菓子店経営



新橋落橋

朝起きたときに川の水の音を聞いて、「あ、違う」って思いました。で、姉と川の様子を見にいくと、水の勢いは今まで見たことがないほど速く、川の水が橋にぶつかって跳ね返っていました。

そのうち、橋の欄干のすき間から水があふれ出し、かまぼこ状の橋の上を川のように流れ出したのです。「来る、来る、来る」って感じでね。私たちは水に追いかけるように家に帰り、とりあえず母と犬を2、3軒先の敷地がちょっと高い知り合いの家に避難させました。結局、我が家に水が浸入してくるのを止めることはできませんでした。

川からどんどん水が上がって来るし、側溝は水がはけない状態になっていますから、川と道路の差がなくなってきて、細い路地はまるで川のようにダーッと水が流れていました。

長いこと住んでいて今まで水に浸かったことが無かったので、「水は来ない」と思っていました。被災して初めて「川が氾濫するって大変なことなんだな」って思いました。

内閣府『1日前プロジェクト』より転載

## 体験談

# 『土のうが必要になるなんて夢にも思わず

## ～今までの経験が裏目に～』 山陽小野田市 女性 菓子店経営

それまでは徐々に徐々にという感じだったんですけどね。目に見えて水が増えてきたのは、ほんの5分か10分ぐらいの間でした。で、「仕方ない。避難しようか」って感じで、近所の高台にあるお宅に避難させてもらいました。

水がヒタヒタと店の方に押しよせてきた時には、「こういう時は土のうが欲しいね」って本気で話をしていました。

昨年、川向こうが水に浸かった時でもうちの方は大丈夫だったし、今までそういう危険を感じたこともなかったので、土のうが必要になるなんて夢にも思っていませんでした。だから、店に水が浸入するのを防ぐ手立ては何もありませんでした。

「万一水害になったら、物なんかに執着しないで、命だけ持って出たらいいい」としか言えませんね。本当に水はあっという間にやってきますから、一人暮らしのお年寄りを誰がどこに避難させるかは、前もって決めておくようにしなければいけないと思いますね。



厚狭駅交差点

内閣府『1日前プロジェクト』より転載

## トピックス

### 避難をするときに注意する事

次のことに注意して、避難しよう。

- 避難は原則として徒歩で行う。
- 避難するときに持ち出す荷物は必要最小限にする。
- 水があふれている道を通るときは、足元に注意し、前方を棒などで確認しながら移動する。
- 長靴は脱げやすいため、避難には向いていない。歩きやすい靴をはいて避難する。
- 家族や隣近所の人と声をかけあって、ある程度かたまって避難する。

